

「ICT」と「IoT」とは

10月15日（水）

最近よく耳にするようになった言葉が「ICT」と「IoT」です。どちらもインターネットや機器に関わる言葉です。ICTとはInformation and Communication Technology（情報通信技術）の略です。ITとほぼ同じ意味合いですが、特に「活用すること」を重視する場合に使われることがあります。一方、IoTはInternet of Things（モノのインターネット）の略です。エアコンや冷蔵庫、スピーカー、照明といったモノをスマートフォンで操作したり、モノの使用状況をスマホで確認したり。IoTのある生活をイメージしてみると以下のようになります。起床時刻、照明が明るくなって自動で遮光カーテンが開きます。スマートスピーカーに「テレビつけて」と言うと、テレビからは交通情報や天気予報などが流れてきました。会社に向かう途中、鍵を閉めたか不安になったらスマホで施錠を確認。家の中ではロボット掃除機が掃除をしています。夕方、「家の鍵開けて」という連絡が……。鍵を家に忘れたとのことで、アプリを操作して解錠。スマホで冷蔵庫の中身も確認できます。食材を買って帰宅すると、タブレットで課題を終え、提出したところでした。エアコンの自動制御で室内の温度も快適です。私たちが子供の頃、漫画や映画で見ていた世界が現実のものとなりました。社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」も到来し、学校にも1人1台のパソコンが配られました。ICT技術の発展のもと、めまぐるしく変わる「予測困難な時代」を生きる子どもたちには、幅広い視点で将来を見つめてほしいと思います。そのためには、学校はもとより家庭においても子どもの興味や関心を広げる機会をつくるのが大切です。とは言うものの、パソコンを使いこなせればすべてが解決するわけではありません。ベースとなるのは、やはり基礎学力でありコミュニケーション能力など様々な人と接する力です。今年の文化祭は11月1日（土）に実施します。文化祭に向けた取り組みもまもなく始まります。友だちと相談しながら一つのものを完成させる喜びを感じる日や意見が合わず落ち込む日もあると思いますが、それらの経験すべてが「予測困難な時代」を生き抜く原動力になるのです。まだまだ感染症対策が必要ですが、素晴らしい歴史と伝統ある第65回丹波市立青垣中学校の文化祭となることを期待します。「まだまだ感染症等がありいつもと違う年だからこそ、一層思い出の多い文化祭にしてほしい」です…。いよいよ文化祭モード突入です。

本日の5・6校時は2年生が手話教室を行いました。学習のねらいは、地域で生活されている聴覚障害者の方と手話ボランティアをされている方をお招きし、「手話講座」を行う。障がいがある方と直接ふれあう場をもうけ、「聴覚障がいへの理解」と、「共生社会」を求めて行動できる資質を養うことを目的としています。講師は古川重己さんと手話サークルもみじの塩見陽子さんに来校いただき講演会（手話教室）をしていただきました。お二人とも「生徒の皆さんが真剣に取り組んでいた姿には感動しました」と感心されていました。



○3年生学年弁論大会の様子



○2年生手話教室の様子



○1年生校外学習事前指導の様子

